

現代日本学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
現代日本学概論Ⅰ	現代日本学の方法	2	茂木 謙之介	3	火曜4限
現代日本学概論Ⅱ	現代日本における職業	2	田中 重人	4	金曜2限
現代日本学基礎講読Ⅰ	雑誌研究入門	2	茂木 謙之介	3	火曜2限
現代日本学基礎講読Ⅱ	現代日本学英語文献講読	2	田中 重人	4	火曜4限
現代日本学各論Ⅰ	現代日本における家族と人口	2	田中 重人	5	水曜2限
現代日本学各論Ⅱ	日本演劇論	2	赤井 紀美	6	火曜4限
現代日本学各論Ⅲ	〈怪異〉メディア論	2	茂木 謙之介	5	火曜5限
現代日本学各論Ⅳ	人形の文学・文化論	2	西原 志保	6	木曜3限
現代日本学各論Ⅴ	ヴィランの文化	2	小松 史生子	5	集中講義
現代日本学各論Ⅵ	修養と教養の女性史	2	大澤 絢子	6	集中講義
現代日本学講読Ⅰ	日本学論文講読	2	茂木 謙之介	5	水曜4限
現代日本学演習Ⅰ	現代日本学の実践	2	田中 重人	5	月曜3限
現代日本学演習Ⅱ	現代日本学研究の実践	2	田中 重人	6	月曜3限
現代日本学演習Ⅲ	現代日本における社会問題の分析	2	田中 重人	6	金曜4限
現代日本学演習Ⅳ	日本戯曲分析	2	赤井 紀美	5	火曜3限
現代日本学演習Ⅴ	人物・作品から考える日本の近代・現代	2	雲然 祥子	5	金曜2限

科目名：現代日本学概論 I

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB32401, **科目ナンバリング：**LHM-OHS204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本学の方法と対象

2・授業の目的と概要：：本講義では現代日本学の基礎的な方法について概説する。「メディア」・「表象」・「言説」をキーワードとして、文化研究の方法としての批評理論を紹介し、具体的な検討を通して理解を図る。

3. 学習の到達目標：現代日本学の方法について理解し、先行論文を正確に読めるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 「メディア」「表象」「言説」から考える

第 3 回 批評理論の歴史

第 4 回 物語論①

第 5 回 物語論②

第 6 回 脱構築批評

第 7 回 メディア論

第 8 回 表現の不自由

第 9 回 アダプテーション

第 10 回 翻訳論

第 11 回 歴史と物語

第 12 回 文化研究の思考

第 13 回 ジェンダー批評

第 14 回 ポストコロニアル批評

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。各自ノートを取ることを。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学概論Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：4 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LB45201, **科目ナンバリング：**LHM-OHS205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本における職業

2・授業の目的と概要：職業・労働について、社会学を中心に、経済学・経営学・法学などにおけるとらえかたを概観したうえで、現代日本社会における問題について考えていきます。トピックとしては、労働統計の読みかた、雇用をめぐる法と政策、外部労働市場と内部労働市場、社会階層と社会移動、ジェンダーと労働などをとりあげます。毎回の授業において、これらのトピックについて作文を完成させる課題または法律や統計などの資料を探索・解釈する課題をこなす必要があります。

3. 学習の到達目標：現代日本社会における職業と労働に関する諸問題を理解する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- イントロダクション
- 労働統計(1) さまざまな働きかた
- 労働統計(2) 賃金と労働時間
- 雇用をめぐる法と政策
- 外部労働市場と内部労働市場
- 企業の人事管理と労働者のキャリア
- ここまでの復習とレポート課題の設定
- 社会階層と職業
- 社会移動と職業・教育
- ジェンダーと労働
- 社会的不平等と職業
- レポート草稿提出とフィードバック

5. 成績評価方法：毎回の課題（50%）と期末レポート（50%）によって評価する。

6. 教科書および参考書：【参考書】

厚生労働省（2024）『知って役立つ労働法』。

労働政策研究・研修機構（2010）「特集：初学者に語る労働問題」『日本労働研究雑誌』597。

宮本太郎（2009）『生活保障』岩波書店。

犬塚先（編）（2003）『新しい産業社会学』（改訂版）有斐閣。

嵩さやか・田中重人（編）（2007）『雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会。

7. 授業時間外学習：各回の課題遂行及びレポート執筆準備

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/occ/> に掲載予定

科目名：現代日本学基礎講読Ⅰ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：3 **単位数：**2.00 単位

担当教員：茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LB32203, **科目ナンバリング：**LHM-OHS206J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：雑誌分析入門

2・授業の目的と概要：本授業では、現代の雑誌を講読し、メディア分析の方法を学ぶ。雑誌メディアから日本学を考究することの可能性と困難さを考える。毎回発表者を立ててテキストを精読し、議論を行う。参加者には事前にテキストを熟読することが求められる。

3. 学習の到達目標：雑誌分析についての基本的な知識を獲得するとともに、口頭報告と議論の技能を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 担当の決定と資料検索の方法

第 3 回 準備報告①

第 4 回 準備報告②

第 5 回 雑誌講読①

第 6 回 雑誌講読②

第 7 回 雑誌講読③

第 8 回 雑誌講読④

第 9 回 雑誌講読⑤

第 10 回 雑誌講読⑥

第 11 回 雑誌講読⑦

第 12 回 雑誌講読⑧

第 13 回 雑誌講読⑨

第 14 回 雑誌講読⑩

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。

7. 授業時間外学習：毎回、事前のテキスト精読が必須となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学基礎講読Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：4 単位数：2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LB42403, 科目ナンバリング：LHM-OHS207J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：現代日本学英语文献講読

2・授業の目的と概要：日本に関する英語文献を取り上げ、その読解と文献の内容／コンテキストについての討論をおこなう。

3. 学習の到達目標：学術的な英文の読みかたを理解し、日本学に関連する英語文献を自らの研究に役立てる基礎的な技術を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

日本に関する英語文献について、各自の担当部分を報告し、それに基づいて討論を進める。

5. 成績評価方法：担当部分の報告（50%）、議論における発言（50%）。

6. 教科書および参考書：なし

7. 授業時間外学習：報告の準備および各回の予習

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学各論 I

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LB53201, **科目ナンバリング：**LHM-OHS301J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本における家族と人口

2・授業の目的と概要：特に家族制度と人口現象に注目して、近代以降の日本社会について講義する

3. 学習の到達目標：現代日本社会の分析のために必要な知識と方法を知る

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：はじめに：社会分析のための知識と方法

第2回：法と規範

第3回：法的な情報を調べる方法

第4回：現代日本の家族法について受講生からの報告と討論

第5回：現代日本の家族法について補足説明

第6回：人口統計と人口現象

第7回：20 世紀日本社会の人口変動

第8回：講義前半の振り返りと進度確認

第9回：ライフサイクルの変化

第10回：近代化にともなう社会変動

第11回：工業化と都市化

第12回：イエ制度の解体と個人主義化

第13回：日本的経営と福祉国家

第14回：講義後半の振り返りと進度確認

第15回：講義全体のまとめと講評

5. 成績評価方法：授業中に課す課題および宿題による

6. 教科書および参考書：なし

7. 授業時間外学習：各回の課題に対応する予習・復習と宿題

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/c.html> に掲載予定。

科目名：現代日本学各論Ⅱ

曜日・講時：火曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：赤井 紀美

コード：LB62401, **科目ナンバリング：**LHM-OHS302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本演劇論

2・授業の目的と概要：古代から現代にいたるまでの日本の芸能と演劇について、様々な視点から講義する。
現代の日本文化にも大きな影響を与えている芸能・演劇について、歴史的な事例を通して理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：日本の芸能・演劇の歴史、特性について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業は講義を中心に進める。

第1回：イントロダクション

第2回：古代の芸能・演劇

第3回：古代の芸能・演劇

第4回：中世の芸能・演劇

第5回：中世の芸能・演劇

第6回：中世の芸能・演劇

第7回：近世の芸能・演劇

第8回：近世の芸能・演劇

第9回：近世の芸能・演劇

第10回：近世の芸能・演劇

第11回：近世の芸能・演劇

第12回：近現代の芸能・演劇

第13回：近現代の芸能・演劇

第14回：近現代の芸能・演劇

第15回：近現代の芸能・演劇

5. 成績評価方法：出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：授業内で指示をする。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅲ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB52501, 科目ナンバリング：LHM-OHS303J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：〈怪異〉メディア論

2・授業の目的と概要：本講義においては、近代に日本における〈怪異〉とメディアの関係について考える。しばしば日本における近代化は中央集権化と合理化によって説明される。では非合理的な〈怪異〉は如何なる近代を経験したのだろうか。近代の文化・文学現象を素材に、思想や政治、軍事、宗教など様々なトピックと関連させて議論を試みたい。

3. 学習の到達目標：近現代の〈怪異〉のメディア表象の検討を通して、日本学研究について知見を得ることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 怪異研究の現在
- 第 3 回 井上円了と「妖怪」
- 第 4 回 三遊亭圓朝と怪談の翻案
- 第 5 回 科学と千里眼事件
- 第 6 回 初期探偵小説の可能性
- 第 7 回 泉鏡花の圏域
- 第 8 回 昭和怪談ブーム
- 第 9 回 心霊と国家改造
- 第 10 回 戦争怪談の射程
- 第 11 回 オカルトブームの時代
- 第 12 回 水木しげると妖怪キャラクター
- 第 13 回 雑誌『ムー』とナショナリズム
- 第 14 回 J ホラーの拡散
- 第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。参考書は適宜指示する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅳ

曜日・講時：木曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：西原 志保

コード：LB64301, **科目ナンバリング：**LHM-OHS304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：人形の文学・文化論

2・授業の目的と概要：日本文学や日本文化における人形表象を見ることで、身体や労働について考える。

人形は人の形をとることで、人間とは何かという概念や、身体感覚と結びつく。また、人形は女性と重ねられることが多いため、ジェンダー論的な観点からも注目する。

3. 学習の到達目標：アニメや漫画、映画などにおける人形表象を通し、現代社会や文化の構造を理解し、自らとの関係を考えることができる。また、様々な資料を参照し、関連づけながら、自分の読みを提示するスキルを身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

- 1 ガイダンス：テキストを読む手法
- 2 人形は客体か：乱歩・川端・澁澤龍彦
- 3 球体関節人形と「内面」：笙野頼子『硝子生命論』と天野可淡「解かれたガラスのリボン」
- 4 人形の心と体：PEACHPIT『ローゼンメイデン』
- 5 サイボーグと人形と労働：『R. U. R』『ブレードランナー』『イノセンス』
- 6 女性と人形と「書くこと」：『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』
- 7 人形とケアワーク：『トイストーリー4』
- 8 めいぐるみとケアワーク：『逃げるは恥だが役に立つ』における AI とクマのめいぐるみ
- 9 祈りのウサギ：『MIU404』第4話におけるウサギの編みぐるみ
- 10 めいぐるみとラブドール：森見登美彦『四畳半神話体系』におけるクマのめいぐるみ
- 11 動物と人形：京極夏彦『魍魎の匣』と『ルー＝ガルー』
- 12 人形と生殖：笙野頼子『水晶内制度』と猫エッセイ・小説
- 13 血と出産とラブドール：是枝裕和『空気人形』
- 14 自然な去勢と人工的な生殖：菅実花『ラブドールは胎児の夢を見るか？』
- 15 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。参考書は適宜授業内で指示する。

7. 授業時間外学習：授業内で扱う書籍や映画・漫画は、事前に読んでおくことが望ましい。
授業内で分からなかった点は自分で調べたり、質問したりすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅴ

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：小松 史生子

コード：LB98801, 科目ナンバリング：LHM-OHS305J, 使用言語：

1. 授業題目：ヴィランの文化

2・授業の目的と概要：19世紀半ば以降の大衆文化を、ヴィラン（Villain）表象を軸に分析する。ヴィランの表象に潜在するテキスト構造やナラティブについて、理論的に解析する。

3. 学習の到達目標：大衆文化の成り立ちを学際的・体系的に学ぶことで、現代社会構造を形作ってきた欲望の歴史を理論的に追究する思考力が身につく。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 怪盗Ⅰ

第3回 怪盗Ⅱ

第4回 詐欺師

第5回 剣鬼Ⅰ

第6回 剣鬼Ⅱ

第7回 悪女Ⅰ

第8回 悪女Ⅱ

第9回 怨霊Ⅰ

第10回 怨霊Ⅱ

第11回 人獣

第12回 秘密結社

第13回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論①

第14回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論②

第15回 ヴィラン文化史に関する論点の提示と議論③

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた準備学習が求められる。学外での調査も含まれる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学各論Ⅵ

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：大澤 絢子

コード：LB98820, 科目ナンバリング：LHM-OHS313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：修養と教養の女性史

2・授業の目的と概要： 本講義では、近現代日本の女性の精神文化史をテーマに、明治以降の日本社会で女性たち「自己」がどのように形成され、その向上が目指されてきたのかを考察します。

個人と社会・他者との関係を文学・宗教・哲学・教育学・社会史・ジェンダー史などの多様な領域での議論を手がかりに読み解くことで、多様な要素が組み合わさりながら積み重ねられてきた日本女性と精神性の実態や変化について考え、多様なものの見方を身につけます。

3. 学習の到達目標： 「より良い自己とは何か」、「いかに自分を高めるか」といった問いは、性別を問わない課題と言えるでしょう。

近代日本において、そのような問いは主として、宗教や哲学のほか、道徳や学問、文学などを通して追究されてきました。

本講義では、この問いを女性に焦点を当て、多様な側面からその歴史的経緯を考察します。

近現代日本の精神形成に関する主な事象を学び、日本社会に生きる人々の多様な価値観を理解する力を身につけることを目指して、以下の3点を到達目標としています。

1. 明治以降の日本社会における女性たちの自己形成

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(概要)

- ・スライドやレジュメを用いて授業を行います。
- ・講義内で、各回の内容に関する課題（リアクションペーパー）を提出してもらいます。
- ・提出課題の一部は授業内で紹介しますが、その際は匿名で取り上げます。
- ・コメントや質問を通して受講者の理解度の確認し、疑問の解決をしながら授業を進めます。

(スケジュール)

- 【1】 イントロダクション
- 【2】 明治日本と精神性
- 【3】 修養・教養とは何か
- 【4】 立身出世と錬成型修養
- 【5】 たしなみと修養・教養
- 【6】 働く女性が目指した自己
- 【7】 婦人団体のなかの修養
- 【8】 家電が作った女性の教養文化
- 【9】 女性の余暇時間を考える
- 【10】 「つきあい」と女性の生き方
- 【11】 働く女性と自分磨き
- 【12】 自己を管理する女性たち
- 【13】 高齢社会と女性の生きがい
- 【14】 ディスカッション
- 【15】 講義のまとめ

5. 成績評価方法：出席および各回の課題提出（100%）

- ・各回課題として、リアクションペーパーの提出を求めます(テーマは各回提示します)。
- ・5回以上課題の提出がない場合は、評価の対象としません。

*評価方法や注意事項については授業中にも説明しますので、よく確認してください。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しません。

授業内で関連書や動画などを紹介します。

7. 授業時間外学習：特になし。

・各回の人物に関連する資料や書籍などを読んだり、各自の興味関心に合わせて調べたりしておき、講義後はレジュメを読みながら復習するとよい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

- ・履修学生の人数や関心に応じて授業内容や運営方法を一部変更することがあります（その場合には事前に周知・説明をします）。
- ・質問や相談などは、授業後またはメールで受け付けます。
- ・受講にあたり、社会学や思想史に関する専門的知識の有無は問いません。

科目名：現代日本学講読 I

曜日・講時：水曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：茂木 謙之介

コード：LB53404, **科目ナンバリング：**LHM-OHS306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本学講読

2・授業の目的と概要：本授業では現代日本学に関連する論文の精読を行う。日本学は日本という地域を多角的に考察する学問であるため、その対象や研究方法もきわめて多様であり、本講義では様々な対象および方法論を検討する。受講者は学期中に最低一回の口頭報告を行う。

3. 学習の到達目標：受講生が、この授業を通して文献講読の方法を理解し、自らの問題意識を先鋭化させることが出来ることが到達目標である。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度予定は以下のとおりであるが、進行状況によって若干内容を変更する場合もある。

第 1 回 イン트로ダクション

第 2 回 担当の決定と論文検索の方法

第 3 回 準備報告①

第 4 回 準備報告②

第 5 回 論文講読①

第 6 回 論文講読②

第 7 回 論文講読③

第 8 回 論文講読④

第 9 回 論文講読⑤

第 10 回 論文講読⑥

第 11 回 論文講読⑦

第 12 回 論文講読⑧

第 13 回 論文講読⑨

第 14 回 論文講読⑩

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：履修者全体の上位 10%程度を「AA」とし、次に優秀な 20%程度を「A」とする。出席状況や課題レポートを総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は特に指定しない。

7. 授業時間外学習：毎回、事前の論文精読が必要となる。また授業後は当日の議論を踏まえて、復習的にまとめ直すことが望ましい。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業の構成上、履修者数の上限があるため、上限に達した場合は抽選を行う。

科目名：現代日本学演習 I

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田中 重人、茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LB51305, **科目ナンバリング：**LHM-OHS308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本学研究の実践

2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。参考書は授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田中 重人、茂木 謙之介、赤井 紀美

コード：LB61305, **科目ナンバリング：**LHM-OHS309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本学研究の実践

2. 授業の目的と概要：日本研究の方法と対象・領域について諸学問分野の基礎文献を取り上げ課題を設定し報告する。

3. 学習の到達目標：日本研究の方法の多様な方法論を実践的に習得し研究報告を行う中で課題を発見する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトにもとづき、研究を進める。授業においては、受講者が研究の経過と課題を報告し、討論をおこなう。

第1回：はじめに

第2回：研究プロジェクト管理に関わるガイダンス

第3回：文献・研究課題に関わるガイダンス

第4回：担当者による口頭発表と質疑応答①

第5回：担当者による口頭発表と質疑応答②

第6回：担当者による口頭発表と質疑応答③

第7回：担当者による口頭発表と質疑応答④

第8回：担当者による口頭発表と質疑応答⑤

第9回：担当者による口頭発表と質疑応答⑥

第10回：担当者による口頭発表と質疑応答⑦

第11回：担当者による口頭発表と質疑応答⑧

第12回：担当者による口頭発表と質疑応答⑨

第13回：担当者による口頭発表と質疑応答⑩

第14回：日本学の課題についての総合討論①

第15回：日本学の課題についての総合討論②まとめ

5. 成績評価方法：発表（レポートを含む）[60%] と出席 [40%]（授業中の対話を含む）

6. 教科書および参考書：教科書は使用せず、発表資料を作成し発表・報告を行う。参考書は授業の中で随時紹介する。

7. 授業時間外学習：各自の関心にしたがって設定した研究プロジェクトを、教員の指導を得ながら進める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：現代日本学演習Ⅲ

曜日・講時：金曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：田中 重人

コード：LB65405, **科目ナンバリング：**LHM-0HS310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：現代日本における社会問題の分析

2・授業の目的と概要：日本における社会問題について、各自の関心に基づいて問いを立て、資料・データを収集・分析し、批判的思考と議論を通じて答えを導くプロセスを体験する。

3. 学習の到達目標：社会問題を分析するための基本的なスキルを習得する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

受講者各自の関心にしながら文献調査を行い、途中経過の報告と討論を行いながらレポートを作成する。

- はじめに：この授業での課題設定と調査の方法
- 文献データベースの利用と論文の読みかた
- 論文について発表
- 引用をたどる
- 中心的情報源
- 専門用語と理論体系
- 資料の評価と活用
- アイディアの創出
- 議論を組み立てる
- 研究プロジェクトの計画と遂行
- レポート提出および口頭試問

5. 成績評価方法：授業中の課題（30%）、途中経過等報告と討論での発言（30%）、期末レポート（40%）

6. 教科書および参考書：【参考書】佐藤望ほか（2020）『アカデミック・スキルズ』（第3版）慶應義塾大学出版会

7. 授業時間外学習：授業で指示する課題をこなしながら、各自の関心にしながら研究プロジェクトを進める

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

授業資料は <http://tsigeto.info/study/> に掲載予定。

科目名：現代日本学演習Ⅳ

曜日・講時：火曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：赤井 紀美

コード：LB52305, **科目ナンバリング：**LHM-OHS311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本戯曲分析

2・授業の目的と概要：この授業では、日本の戯曲作品の読解を通して、それぞれの表現の特徴を明らかにし、その意義を広く文化史の中に位置づけることを目指します。

3. 学習の到達目標：戯曲を主体的に読解することができる。
文学や映画など他のメディアや社会的・文化的な文脈において作品を意義付けることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

毎回担当者による発表と討論を行う。

第1回 イン트로ダクション

第2回 担当者による発表

第3回 担当者による発表

第4回 担当者による発表

第5回 担当者による発表

第6回 担当者による発表

第7回 担当者による発表

第8回 担当者による発表

第9回 担当者による発表

第10回 担当者による発表

第11回 担当者による発表

第12回 担当者による発表

第13回 担当者による発表

第14回 担当者による発表

第15回 担当者による発表

5. 成績評価方法：発表の内容や討論への関わりかたにより評価する。発表テーマについての個別のレポートによることもある。

6. 教科書および参考書：授業時に指示する。

7. 授業時間外学習：自分の発表の準備を整える。発表後の質問や討論を研究に反映させる。他の学生の発表原稿を事前に読み、質問と議論の準備をする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：現代日本学演習 V

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：雲然 祥子

コード：LB55204, **科目ナンバリング：**LHM-OHS312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：人物・作品から考える日本の近代・現代

2・授業の目的と概要：人が生きた背景には、歴史と時代情勢の変化がある。この授業では、受講生の興味・関心のある人物を 1 人取り上げ、その生涯や事績をたどる作業を行うことで、近代・現代の日本の歴史や社会情勢などを学ぶことを目的としている。

それらの作業によって、その人物が生きた時代に何が起こっていたのか、それがどのような影響を与えたのかなどを文献や史資料を利用しながら考える。そして、今日の国内外における諸問題を考える手がかりをつかむ。

3. 学習の到達目標：歴史的な知識および思考力・表現力を身につける。

様々な史資料の分析・読解を通して、当時の社会情勢を理解できる。

現実社会における課題を発見し、それに対して自らの意見を持ち、適切な言葉で整理できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 課題の設定・先行研究の調査・注意事項

第 3 回 ケーススタディ（事例報告①）

第 4 回 受講生による発表

第 5 回 受講生による報告・議論①

第 6 回 受講生による報告・議論②

第 7 回 受講生による報告・議論③

第 8 回 受講生による報告・議論④

第 9 回 ケース・スタディ（事例報告②）

第 10 回 受講生による報告・議論⑤

第 11 回 受講生による報告・議論⑥

第 12 回 受講生による報告・議論⑦

第 13 回 受講生による報告・議論⑧

第 14 回 これまでの報告・議論のまとめ

第 15 回 授業のまとめ・期末レポート作成に向けて

ただし、受講生の進捗状況に応じて、内容が変更になる場合がある。

5. 成績評価方法：授業中の課題（20%）および報告・討論（30%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。各自でレジュメを作成し、それに基づいた報告を行うこととする。
参考書については、授業の中で適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：史資料・文献などを利用し、授業・演習で学んだことをふまえつつ、報告者の研究テーマに関する史実や当時の社会情勢などを事前に学習しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：